

第1回定例会 個人質問から

高齢者の暮らしを支える 介護事業の担い手確保について



寄谷 猛男
日本共産党

問 街路灯のLED化は、小さな町内会には初めの負担が重いと感じる。補助金の引き上げなど町内会の実態に沿った支援について考えを伺う。

答弁 町内会の協力により街路灯のLED化は、令和3年度末には82%に達成する予定です。LED化による2年分の電気料金の削減額をもってLEDへの切り替え工事ができることから多くの町内会が負担のないよう計画的に取り組んでいます。

LED化に積極的ではない町内会もありますが、市がLED化の初期投資と費用対効果を十分に伝えきれていないことが大きな要因と考えています。LED灯への交換費用は1灯当たり多くても一万数千円です。この費用が町内会にとってどれほど厳しい金額なのか、町内会によって違うとは思いますが、何とかやりくりできる範囲であると考えて制度をつくっています。今まで取り組んでいなかった

町内会に対して具体的な数字をもって説明をするなど効果を分かりやすく説明して切り替えを進めたいと考えます。

問 高齢化、人口減少が進み町内会など地域の組織の維持が難しくなる中で、高齢者の介護事業の担い手の確保や組織化に向けた取り組みを伺う。

答弁 今後、少子化、人口減が進むことで介護事業の担い手の確保はますます困難になると予想されます。高齢者の保健事業・介護予防についての第8期計画では、介護人材のすそ野を拡大するために、中・高校生なども含む若者への普及啓発や、より多くの市民が介護の必要性を知る機会を作るため介護未経験者が受講しやすい入門的研修などを企画し、介護保険事業所や社会福祉協議会、シルバー人材センターなどの関係機関と協議を行い、ニーズを見極めたうえで多様な人材参入の実現に向けた施策や組織化を検討します。

リモートによる審査方法を導入しました

コロナ感染症拡大防止対策として3密を回避するため、第1予算審査特別委員会でメイン会場と2つのサブ会場をパソコンで接続して行うリモート方式で会議を開催しました。(第2予算審査特別委員会は少人数のため従来の対面方式で実施)

▼リモート会議画面 メイン会場①、委員長②、サブ会場③④

